

【課題解決型研究プログラム】安全確保研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 多岐にわたる PJs を PJ8 で体系構築した努力を評価する。【年度】
- SDGs への貢献も示されているが、SDGs と各 PJ との関係がややわかりにくい印象を受けた。【年度】【見込み】
- 健康影響評価や化学物質暴露の把握など重要な課題が研究され、期待以上の成果を上げている。また、影響評価の分析手法の開発や解析においても一定の成果が認められる。しかし、これらはリスク管理の措置の一部で、このプログラムが目的としている安全確保のためのリスク管理の体系を示して欲しい。【年度】【見込み】

今後への期待など

- 研究プログラムを総括するPJ8の推進はチャレンジングな課題であるが、社会経済的評価や社会的損失額の検討が含まれていくことで政策的な実装に繋がっていくと思いますので、一層の展開を期待する。【年度】【見込み】
- 化学物質のヒトへの健康影響評価研究では、実験動物や細胞を用いた基礎研究だけでなく、疫学研究やフィールドでの実態調査研究も重要であると考えられるが、それらについての研究成果も期待する。【年度】
- ノンターゲット分析法など従来の範囲を超えて提供されるデータ・情報を如何に適切に活用すべきか、社会的な対応やシステム等に関する提案やシステムの姿等についての成果も期待する。【年度】
- 福島沿岸における魚類の経年変化や分布の増減の解析結果は大いに期待する。【見込み】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 本 PG としては評価手法や影響解析・評価の知見を得つつ、PJ8 でそれらの知見を新たなリスク管理にどう結び付けるかの枠組みを提案したいと考えています。引き続き努力したいと思います。
- ② SDGs との対応はご指摘の通り現時点では特に明確ではないところがありますが、次期中長期に向けては SDGs への貢献がより整理した形でお示しできるよう検討したいと思います。
- ③ 安全確保領域の課題は多数の物質・要因と影響の組み合わせが本質と考えており、本 PG だけではご指摘の通り一部しかカバーすることは出来ませんが、一つずつの方法論を追加し、それらを全体にまとめる枠組みと方法を提示することで体系に貢献したいと考えています。
- ④ PJ8 ではこれまでの過去事例からの分析にとどまらず、他の観点や社会経済的評価なども視野に政策実装に結び付けるべく努力します。
- ⑤ 実験動物、細胞による基礎研究では、例えば分子疫学研究に有用なエピジェネティクス等の分子マーカーの評価や測定法の開発を行っており、今後の疫学研究やフィールド研究に資するとともに研究成果をお示ししたいと考えております。
- ⑥ ノンターゲット分析など新たな分析法が新たなリスク管理やシステムを提起する可能性についても今後検討してまいります。
- ⑦ 福島県沿岸調査に関するご指摘については、底棲魚介類群集の質的及び量的な経年変化と、それをもたらした要因並びにメカニズムをお示しすべく、現地調査と解析を継続してまいります。